

## 新必修科目「公共」(仮称)の構成

- 現代社会の課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得する。
- 立場や文化によって意見の異なる様々な課題について、その背景にある考え方を踏まえてよりよい解決の在り方を協働的に考察し、公正に判断、合意形成する力を養う。
- 持続可能な社会づくりの主体となるために、様々な課題の発見・解決に向けた探究を行い、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」として必要な資質・能力を養う。

新選択科目  
「倫理」(仮称)

新選択科目  
「政治・経済」  
(仮称)

公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を育み、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める学習を充実

自立して思索を行うとともに、他者と共に生きる主体を育む「倫理」

※ 思想史的知識の習得に終始しないようにする。

国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」

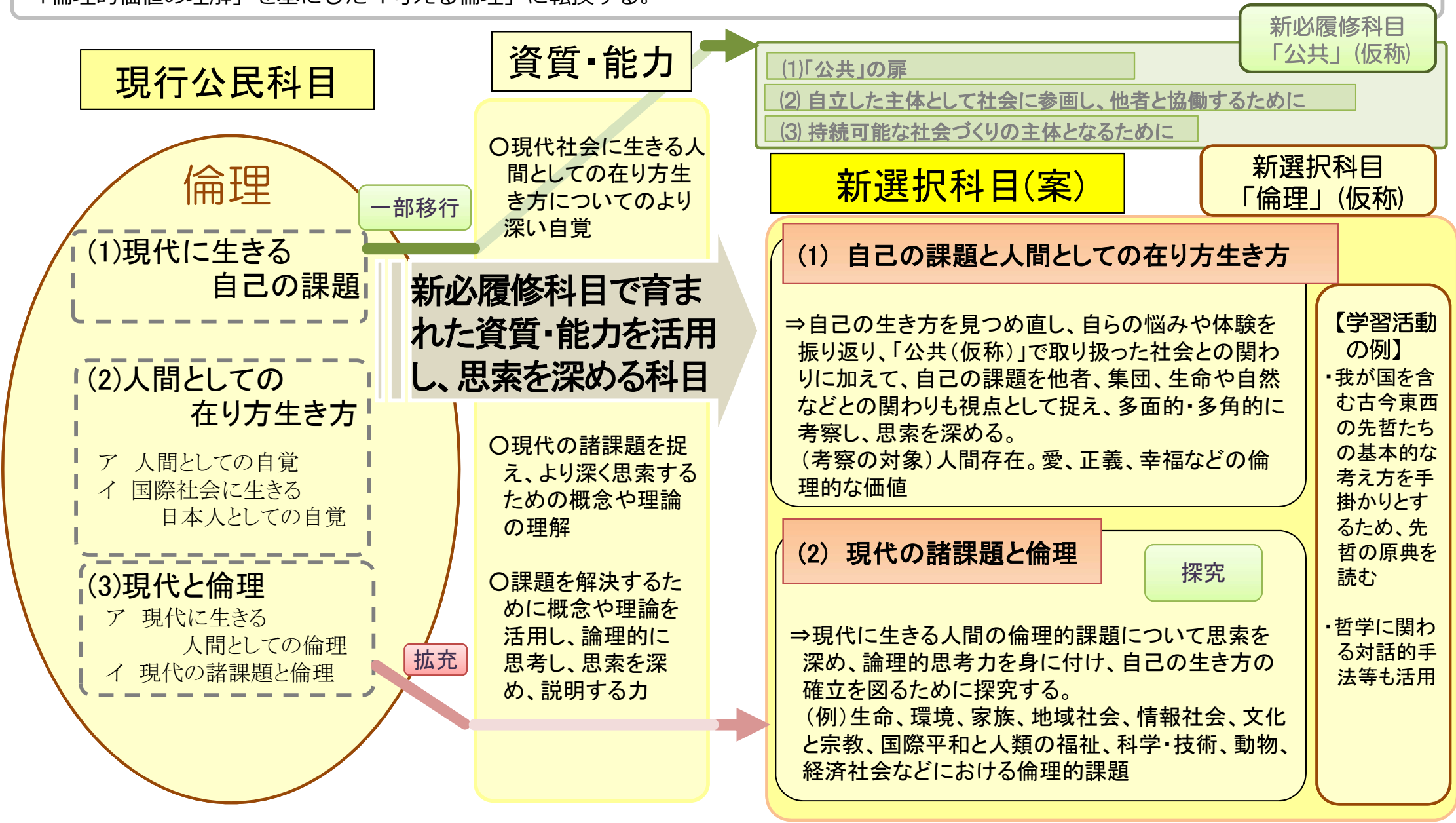
※ 制度・仕組みの知識の習得に終始しないようにする。

※ 現行の選択必修科目「現代社会」同様に1科目でもって公民科の教科目標を達成することのできる新必修科目「公共」(仮称)を設置することとなっている。この科目は、「現代社会」における三つの大項目相互の関係や学習内容において共通する点が多く、その発展と捉えることもできることから、「現代社会」については科目を設置しないことも含め検討する。

# 高等学校学習指導要領における公民科目の改訂の方向性として考えられる構成（たたき台案）Ⅰ

## <科目構成の考え方>

・新必修科目「公共（仮称）」で習得した個人が判断するための手掛かりとなる考え方を基盤とし、古今東西の幅広い知的蓄積を通してより深く思索するための概念や理論を理解し、それらを活用して現代の倫理的諸課題を探究し、人間としての在り方生き方をより深く自覚し、人格の完成に向けて自己の生き方の確立を図る主体を育む「倫理」に発展させる。そのために、思想史の断片的な知識の暗記中心から、「倫理的価値の理解」を基にした「考える倫理」に転換する。



＜科目構成の考え方＞

・小・中学校社会で身に付けた社会的事象の見方や考え方を基盤に、新必修科目で習得した選択・判断の基準となる概念を活用し、現代日本の政治や経済の諸課題や国際社会における日本の役割など、正解が一つに定まらない現実社会の諸課題を協働して探究し、国家・社会の形成により積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」に発展させる。

新必修科目  
「公共」(仮称)

(1)「公共」の扉

(2) 自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

(3) 持続可能な社会づくりの主体となるために

現行公民科目

資質・能力

○国際社会において、国家・社会の形成により積極的な役割を果たそうとする意欲や態度

新選択科目(案)

新選択科目  
「政治・経済」(仮称)

政治・経済

(1)現代の政治

- ア 民主政治の基本原則と日本国憲法
- イ 現代の国際政治

(2)現代の経済

- ア 現代経済の仕組みと特質
- イ 国民経済と国際経済

(3)現代社会の諸課題

- ア 現代日本の政治や経済の諸課題
- イ 国際社会の政治や経済の諸課題

新必修科目で育まれた資質・能力を活用し、社会形成に向かう科目

○正解が一つに定まらない、現実社会の複雑な諸課題の解決策を探究するために必要な概念の理解

○社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に解決策を構想する力

○構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成に向かう力

(1) 民主政治の基本原則と現代の経済

⇒「公共(仮称)」で取り扱った法や民主政治、現代経済について、それらを構成する様々な専門領域を深く追究し、複雑な現代政治・経済の特質を捉えるとともに、その解決策を探究する。

(課題例) 望ましい政治の仕組み及び主権者としての政治参加の在り方、経済活動の在り方と福祉の向上の関連、少子高齢社会と社会保障制度…

探究

(2) グローバル化が進む国際政治・経済

⇒現代の国際政治・経済に関わる概念や理論、複雑な国際政治・経済の特質を捉え、それを説明するとともに、その解決策を探究する。

(課題例) 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割、国際経済における日本の役割、地球環境と資源・エネルギー問題…

探究

【学習活動の例】

・複雑な現実社会の諸課題を取り扱い、協働して課題の解決策を探究する

・討論、ディベートなどの手法等も活用